

「人はがんとどう向き合うか？」



の実例をいくつかお話して、「人間の強さ、弱さをすべて包摂して医療はある」ことをお伝えした。

2. 妻の場合、私の場合私の妻は僅か4ミリで発見した小細胞肺癌を治せなかった。その1年半の斗病ぶりと、妻を在宅で看取った後

録をお話した。
再々発した時、妻は自分の命は3ヶ月とわかっていたので、「家で死にたい」と強く希望し、私は4日間だった。が全神経を集中して妻を自宅で看取った。
40年来の配偶者を失う悲しみ、苦しみは尋常

どの達成をする。その
 実例のいくつかをお話
 した。

この三つの話題から、
 人はどんな状況に置かれ
 ても、希望をもって生き
 るべき存在なのだ、とい
 うことをお伝えした。が
 んと向き合うのは、その
 一部と考えることができ

よう。

以上長丁場の90分でした
が、あっという間に過

ぎてしまい、余人にはか
 えがたい先生のヒューマ
 ニティーあふれる、心に
 しみいるご講演に会場の
 皆様方の盛大な拍手のも
 と、ご講演を終わらせて
 いただきました。垣添先
 生にあらためて厚くお礼
 申しあげます。

啓発を行い、感染の予防拡大の防止に努めること。」を目的として、毎年同時期に滋賀県病院協定会・感染制御ネットワーク主催により開催されています。全国選りすぐりの高名な先生方によるご講演は、大変魅力的で

私も毎年楽しみに参加さ

せていたいております
今年の研修会も盛況で、
医師や看護師、薬剤師、
臨床検査技師など、約
111名の参加があった
と聞いております。

せていただいております
今年の研修会も盛況で、
医師や看護師、薬剤師、
臨床検査技師など、約
111名の参加があった
と聞いております。

何?その現状と対策」をテーマとして、昨今、報道でも取り上げられ話題となっているCRECカルバペネム耐性腸内細菌科細菌について詳しくご講演いただきました。等原先生は、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本臨床微生物学会、日本環境感染学会など、本の多くの学会でも評議

員などを務められ学術奨励賞なども受賞されています。また、ペンシルバニア大学医学部客員研究

員のご経歴もあり、日米に精通されたご高名な先生で、私が初めて笠原先生の講演を拝聴したのも米国感染管理疫学専門家協会・APICというアメリカの学会のサマリーセッションでした。今回そのご縁で滋賀県の感染制御の知識向上のために

公立甲賀病院 看護部長
芳尾 邦子

聞かれる3つのことは……健康寿命との関わりについて」の講義がありました。このテーマを決定するにあたっては、病院の患者さんの高齢化に伴う身体的機能の低下もさることながら、看護者自身の高齢化についても話題

(79・55歳) 女性が12位(86・3歳)であるのに対して、健康寿命は男性が18位(70・42歳) 女性が最下位(73・62歳) という事実を知りました。つまり男性は9年間、女性は12年間も健康ではないうちの状態であるという事実を送らなければならぬのです。このことを受けて、この3人の講義を受けました。



構築するためにも健康寿命を延ばすことがとても大切であると思いました。今回の研修は看護職として生涯現役で仕事をしたいことや、自分のライフスタイルを少しでも長く維持していくために、とても参考になりました。

構築するためにも健康寿命を延ばすことがとても大切であると思いました。今回の研修は看護職として生涯現役で仕事をしたいことや、自分のライフスタイルを少しでも長く維持していくために、とても参考になりました。

平成27年度看護部長部会研修会に参加して



公益財団法人 日本対がん協会 会長
国立がんセンター 名誉総長
垣添 忠生 氏

【プロフィール】

生年月日：昭和16年4月10日 出生地：大阪

1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科学部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任し、2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮寛、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、瑞宝重光章などを受賞。

平成28年1月22日(金)にコラボしが21において滋賀県病院協会看護部長研修会が開催されました。今年度は滋賀県成人病センターリハビリテーションセンター科長の川上寿一先生による「ロコモ・フレイル・サルコペニア」最近聞かれる3つのことば…健康寿命との関わりについて」の講義がありました。このテーマを決定するにあたっては、病院の患者さんの高齢化に伴う身体的機能の低下もさることながら、看護者自身の高齢化についても話題

平成27年度院長・事務長合同研修会 「パワーハラスメントの防止と対策」に参加して



医療法人幸生会
琵琶湖中央病院 事務長
森永 寛司

平成28年1月13日に琵琶湖ホテルで開催された平成27年度院長・事務長合同研修会に参加しました。

今回は、特定社会保険労務士の鈴木 徹先生より「パワーハラスメントの防止と対策」と題して、現代社会におけるパワーハラスメントの現状と防止策、認識すべきこと等について詳細にお話があり、改めてパワーハラスメントに真剣に対象が業務遂行上の問題で

必要であることを認識しました。
パワーハラに該当するか否かは、それが適正な業務上の指導の範囲内として認められるものか、そうでないかの判断によることに加え、その時の言葉遣い、声の大きさ、時間の長さ、言動の回数、場所等も関係してくることもや、客観的事実に基づいて話したか、注意の對象が業務遂行上の問題で

なく、相手の人格に向けられていなかったかといったことも判定の重要なポイントになるということです。

また、パワーハラ、セクハラ、マタハラの三大ハラスメントのほかにも、ハラスメントと名のつくものが三十以上あるという話を聞いて驚きました。形態はさまざま、また、本人の意図にかかわらず、人に対する発言・行動が相手に不快にさせたり、相手の尊厳を傷つけたり、相手に不利益や脅威を与えた場合はすべてハラスメントにあたりますので、

十分な配慮が必要になります。
これらのことから、私たちは「ハラスメント」と「適正な業務上の指導」の違いを正しく認識すると同時に、万一紛議が生じた場合には、迅速な対応とあわせ、相手に対してハラスメントに該当しないことを説明できなければなりません。そのため、ハラスメントの防止をはじめとする人権研修の充実・強化、コミュニケーションのとれた風通しの良い職場づくりが何より必要になります。相手を尊重し、人らしい

湖上と現場で考える 「滋賀県地域医療フォーラム2016」を開催

を

やる心を醸成する―まずはここからのスタートだと再認識しました。
当院は昨年度、厚生労働省の「医療分野の勤務環境改善マネジメントシステムに基づく医療機関の取り組みに対する支援の充実を図るための調査・研究」と、モデル事業に参加し滋賀県医療勤務環境改善支援センター、医療労務管理アドバイザー（社会保険労務士）の訪問支援を受け、勤務環境の改善に取り組んできました。今回の研修会に参加し、より一層働きやすく、そして働き甲斐のある職場づくりを進めていく決意を新たにしました。

県内における医師確保を目的に、その第一歩となる臨床研修医のマッチング率向上に向けたフォーラムを、3月13・14日の二日間で開催しました。現役医学生を対象に、各臨床研修病院や滋賀の魅力を発信し、病院施設や周辺環境、地域における使命と役割などを直に確認し、関心をもって希望登録に繋げてもらえるよう、名称を「湖上と現場で考える「滋賀県地域医療フォーラム2016」として、昨年に続く第3弾として行いました。

1日目は、琵琶湖を舞台にクルーズ船「ビアンカ」において、新医師臨床研修制度経験者で浅井東診療所長の松井善典先生によるファシリテートと臨床研修病院13病院合同の「湖上説明会」を、2日目は、臨床研修病院を3ルートに分けてダイジェストで見学する「バスツアー」を行いました。今までのない盛況で、全国18大学から、「湖上説明会」には89名とフロアは満席になり、また「バスツアー」にも62名の参加がありました。

参加した医学生は、現4年生、5年生が中心で、

滋賀県病院協会指導医講習 第2回ブラッシュアップセミナーに参加して



長浜赤十字病院 副院長
楠井 隆

現在の初期臨床研修制度も開始から10年以上が経過し、ようやく定着してきた感があります。病院協会での指導医講習も単なる指導者の養成のみならず、そのレベル維持にも目が向けられるようになってきました。さる2月27日には第2回となるブラッシュアップセミナーがあり、私も有意義な時間を過ごさせていただきました。

では、まず、滋賀医大臨床教育講座の伊藤俊之教授から、我が国における卒前・卒後の医師教育の歴史と今後の展望につき解説いただきました。卒前教育では世界医学教育連盟（WFME）などが提唱する、世界水準に合った教育体制の必要性が認識されるようになり、日本医学教育評価機構（JACME）が設立され、単位積み上げ型から卒業時のアウトカムに基づく

教育プログラムの構築、診療参加型臨床実習の充実など世界標準に向けた取り組みが始まっていること、後期臨床研修では新専門医制度開始前後にあることなどを解説いただきました。次に、滋賀医大医師臨床教育センター長の西田保裕教授から臨床研修に関する滋賀県の動向につき解説いただきました。近年滋賀全体としてマッチングのマッチ数が増加傾向で、新年度には新研修医が100名を超える

こと、それでも近畿地区の同規模の県である、奈良や和歌山よりは少ないことなどをお話いただきました。さらに多くの初期研修医獲得に向けた改善の余地があることが分かりました。
後半のワークショップでは、これらお二人の教授にタスクフォースをお願いして、「滋賀県の若手医師育成の問題点を考える」その具体策を検討する」の2題で活発な討議が行われました。やはり、研修医のさらなる確保、医師不足解消が重要なポイントとなるのと、街づくりや県行政にかか

「高齢化先進地の特色を生かし高齢化社会で重要な地域連携、総合診療などでの強みを訴える（湖北・湖西など）、今回開催のものなどを含め指導医のレベルアップを図る機会を増やす」、「指導医には特別なペイを」、「研修医の声に耳を傾け、研修プログラムの柔軟な運用を行う」（特に大学）、

「県立医大がある和歌山や奈良での取り組みに習い、より大きな予算措置を伴う形での研修医・医師確保問題への県のコミットメントをお願いする」、「滋賀県北部寄りに進学校を誘致して医師の子の教育の機会を確保する」、「滋賀医大の入試で滋賀県への愛着を評価する」など身近なものから街づくりや県行政にかか



「ビアンカ」船上にて





Lixiana[®]
edoxaban tablets

経口FXa阻害剤

リクシアナ錠 15mg 30mg 60mg

一般名：エドキサバントシル酸塩水和物
処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量および警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1
2015年4月作成

